

# この国に 生まれてよかった この時代に 生きてよかった

## ■やればよかった分だけ

障害の重い子どもの教育権保障を懸命に主張しながら、頭から離れなかった不安の一つが高等部卒業後の進路の保障でした。結果的には、共同作業所の開設をほんやりと描きながらも、まずは地域に分厚い運動体づくりをと、「障害者の権利を守り生活の向上をめざす会」（めざす会）の結成を先行させました（前号を参照）。私にとってのめざす会を一言で表すならば、エネルギー不滅の法則の体感

でした。

ただし、エネルギー不滅の法則などという立派な言葉を知ったのはそれから20年以上も後のことです。当時の感覚としては、「やればよかった分だけ返ってくるのでは」くらいだったでしょうか。格好よく言えば、誠実さと地道さを失わなければ何かにつながるのではということを実感したのです。

せっかくだので、ここで、エネルギー不滅の法則について紹介しておきましょう。エネルギー保存の法則の呼び名で覚えている人がいるかもしれませんが、同じ意味です。理

系の学生から聞きかじったのが最初でしたが、なかなかの優れたものです。

簡単に言えば、「いったん生まれたエネルギーは、形を変えながら残っていく」というものです。紙を燃やすとすると、一見して紙は消えてしましますが、実は炭酸ガスに変わり、大気中の炭酸ガスは雨へとつながり、降雨によって植物の育成をもたらすというものです。変更の多い物理学の法則にあつて、変わらない法則の一つにエネルギー不滅の法則があるそうです。

このエネルギー不滅の法則を、私たちの仕事や活動にあてはめるとどうでしょう。思わず膝をポンと叩きたくなります。実にうまく言い当てているではありませんか。発揮したエネルギーは、何らかの形につながり、時に人の心に残っていくように思います。とてつもない時間を費やした後には、ひよっこりと顔をのぞかせることも珍しくありません。

## ■220軒余の訪問調査

さて、話をめざす会の活動に戻しましょう。めざす会の結成直後に手がけた活動は3つでした。結成時から勢いのあつためざす会でしたが、勢いはこれら3つの活動によってさらに増すことになりました。

活動の1つめは、東京都議会議員選挙の候補者に公開質問状を出すことでした。対象は、めざす会の活動エリアだった小平市選挙区としていたすべての候補者で、たしか4人だったと思います。公開質問状の提出活動

は、めざす会の結成時期とも関係しました。結成にはじつくりと時間をかけようという意見もありましたが、公開質問状を具体化させたことで結成は一気に早まりました。結果的にはよかつたと思います。各候補者とも、公開質問状はなじみがなく、ましてや普段から付き合ひの希薄な障害団体ということもあつて面食らつたようでした。それでも誠実に対応してくれたことを記憶しています。

2つめは、小平市内在住の障害のある人の実態調査でした。今では考えられませんが、市役所も保健所も協力的でした。最終的には2000人以上の障害のある人の名簿を集約し、このなかから無作為に850人に郵送で調査用紙を送り、返答のあつた223人の家庭を訪問したのです。

主な調査員は都立小平養護学校（肢体不自由・現在の都立小平特別支援学校）の教職員と大学生でした。調査期間は、夏休みの活用ということもあり、めざす会結成直後の7月

## 第4回 エネルギー不滅の法則

### 藤井克徳

日本障害者協議会代表・きょうされん専務理事

ふじい かつのり / 1949年生まれ。養護学校教員をへて、日本初の精神障害者のための共同作業所「あさやけ第2作業所」や「きょうされん」の活動に専念。日本障害フォーラム（JDF）や、日本障害者協議会（JD）など、様々な団体の役員をつとめる。



下旬から8月末としました。調査員が2人ずつペアを組み、医療、教育、労働、生活の基本的な4分野について聞き取りを行なつたのです。断られたり追い返されるなど、協力を得られなかつた家もありましたが、全体としては「要求の掘り起こし」が成りました。得られた資料は、その後のめざす会の活動の羅針盤となりました。

## ■西武鉄道を向いこつた

3つめは、大手の西武鉄道を相手にしての駅舎改善の運動でした。めざす会が結成されて間もなくの頃（1973年9月）でしたが、西武鉄道は小平市内の花小金井駅の改造方針を打ち出しました。輸送力増強のために10両編成が停止できるようホームの延伸を行ない、これに伴い改札付近とホームとの間に跨線橋を架けるといふものでした。これまでは道路と地続きの改札口から入り、そのままならかな階段を用いてホームにあがることができず、押してもらっている人もいましたが、いづれにしても簡単に電車を利用できたのです。結論から言えば、めざす会の交渉が功を奏し、活路を見出すことができました。跨線橋の設置に合わせて、ホームの端に車いす用のスロープと小さな踏切が設けられ、これまで通り車いすでの電車利用が可能になりました。

3ヵ月という短期間での解決となりました。その背景には、2週間ほどで集めた2500人余の署名を携えての強力な交渉があり



「ああ エレベーター」設置運動を記した「西武鉄道・小川駅の改善をすすめる会」編集委員会編著「ああ エレベーター 障害児をもつ母親の駅舎改善運動奮闘記」（みくに書房）